

ETFは世界中で6,053銘柄以上が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は3.5兆ドル（約409兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2016年12月のETF資金流入

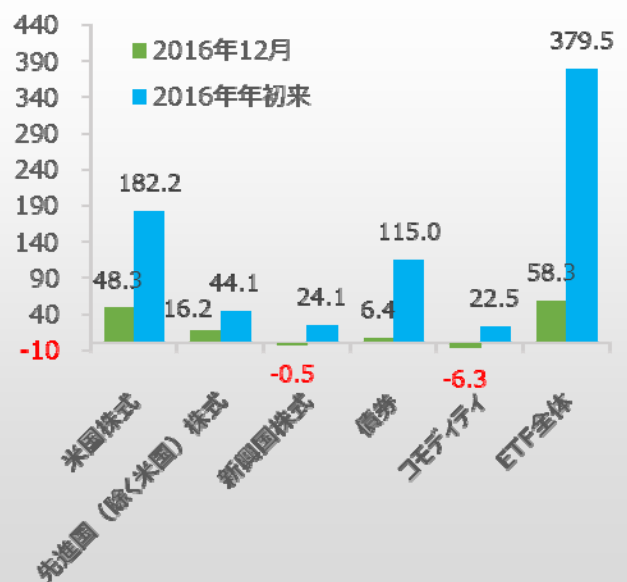
12月単月の資金流入は583億ドルに上り、2016年の年間の資金流入額はETF設定以来最も記録的な3,795億ドルとなりました。債券ETFへの記録的な資金流入、新興国株式への関心の再燃、そして年後半の米国株式への資金の戻りにより、ETF業界は13%の成長を記録しました。

債券ETFへの年間流入は1,150億ドルと昨年の記録を1/3程超える結果となり、成長率は24%と、3年連続で20%を超えました。根強い低金利環境が債券ETFの採用を加速させ、とりわけ利回り商品である投資適格社債に326億ドル、物価連動債ETFに111億ドル、新興国債券に110億ドル、ハイイールド社債に112億ドルの流入となりました。

一方米国株式ETFへの資金流入は年後半から回復し、ブレグジットおよび米国大統領選のサプライズ結果を受けて加速しました。大型株ETFの年間の資金流入は823億ドル、小型株ETFと配当戦略ETFはそれぞれ247億ドル、230億ドルと、設定来最も大きな資金流入を記録しました。

新興国株式全域型ETFは2016年に再び注目を集め、過去3年間連続の資金流出は反転、年間の資金流入は267億ドルとなりました。その流入は、米国大統領選前のコモディティ価格および米ドルの落ち着きが背景にありました。

【世界のETFの資金流入（十億ドル）】

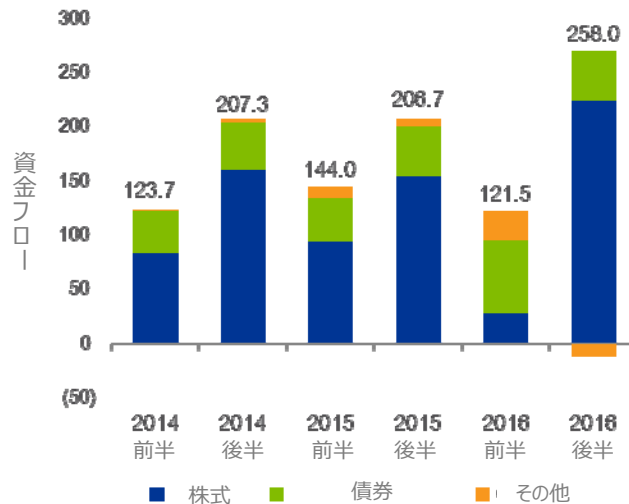


出所：「BlackRock Global ETP Landscape December 2016」

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

ETFから見る世界の投資家動向

【半期でみる2014年以降のグローバルETFの資金流入動向（単位：10億ドル）】



出所：「BlackRock Global ETP Landscape December 2016」

2016年のETFの資金流入は、不透明感の高い市場環境下でも、年間を通して力強さを見せました。年初の高いボラティリティ（価格変動の度合い）は、結果がサプライズとなったブレグジットや米国大統領選の結果を受け急上昇すると見られていましたが、イベントの後はずちに落ち着きました。2016年のETFの資金流入は、前半と後半に分けた説明が可能と考えます。

- 年前半の資金流入は1,215億ドルで、株式リターン低迷および低金利環境の継続により、その流入の半分以上は債券ETFへ向かいました。
- 年後半は資金流入が2,580億ドルにのぼり、そのうち87%は株式ETFへの流入となりました。9月-12月は米国大統領選以降の市場の急上昇を受け、1990年のETF設定以来、最も多く資金を集めた2014年の同時期に次いで2番目に多く資金を集めた期間となりました。また、7月-9月はブレグジットの国民投票後、市場の急速な戻りを受け、過去3番目に資金を集めた期間となりました。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。物価連動国債ETFはインフレ率の低下局面では通常の債券と異なり、インフレ連動際の価格が期待通りに上昇しない場合があります。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】 当ETFを売買する際の手数は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】 当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://www.blackrock.com/jp/ishares>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

iShares®
by BLACKROCK®

ブラックロック・ジャパン株式会社

iシェアーズ事業部 TEL 03-6703-4110（部代表） www.blackrock.com/jp/ishares
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号

加入協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。